

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3月 19日

事業所名 こぶくろ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用時間帯を分けて使用	コロナ禍で分けての使用は消毒、清掃に時間と人手がかかった。
	2	職員の配置数は適切である	○		1:1を守るため出勤を時差式にした	コロナ禍で、共有の使用がどこまでよいのか今後の課題
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	段差は踏み台でカバーする	個人差が大きいバリアフリーであるため常に工夫がある
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		研修会と、Zoomミーティング	職員体制の工夫をするとさらにきめ細かな支援につながる
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		個人差が大きい内容であるため、将来の為を考える	事業には終わりがあがるが、継続した事業に移行する準備がある
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに載せる	内容が分かりやすく納得のいく評価にする必要がある
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		理事会にて公表	研修会の内容として参加者に知らせる
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社会的背景に合わせた内容とする	PC研修を継続していきながら業務で活用する
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		社会的ニーズに応じたアセスメントの取り組み	フェイスシートとしてアセスメントシートを変更して多様な支援に利用できるようにする
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	児童発達を学び、指標としている	実践から見えてくる子供たちの発達を集めて今後の支援に役立てる
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援者を時々代える	スタッフが集まれる時間を捻出する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		長期休みを境に四季折々の活動をする	個別の発達を見逃さないようにして次の課題に移る
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休みは食べる力を設定している	学校帰りは、時間が短いためそこで積み残した課題を充実させる
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		長期休みは集団での活動を多くしている	少人数のグループに分けて集団で個別課題に取り組む
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	出席の確認と体調の共有は確実にする	その日の体調の変化もあり即座に支援内容を変えることは難しいので担当者に任せることがベストである
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りはその日のうちにしている。	知りえた情報を共有している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日報を作成している	日報から個別の記録に反映させると事を今後の課題としている
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○	特に変化が見られたときに見直しのタイミングとしている	保護者のニーズに合わせて定期的に(4回)おこなうようにする
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		自立した生活を送れるように日常生活動作を支援している	支援者のスキルアップ

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		日程調節して参加しやすいようにしている	確実に参加出来るようにしていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○	口頭で都度確認連絡帳で確認	SNS(LINEグループ作成等)を活用していきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者から丁寧な聞き取り	医療機関への受診の際は担当者が付き添える体制づくり
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	計画相談担当者からの聞き取り	担当者が機関との情報共有出来る体制づくり
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		記録をデータ化保存している	個人情報の漏洩防止対策強化
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		計画相談担当者が訪問の際に情報を得ている	研修会等を開催して講師として招く機会を作る
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地域の小学校との交流会	地域在住の子供たちとの交流を増やしたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	交代で職員が出ていく	参加出来るよう開催日の予定を早く入手する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子学習会の開催(月1回)	コロナで開催がむづかしくなっているのでZoomを使って開催をする
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		コロナでの対応もあって内容を変えている	家庭の様子をよく理解することが必要。画一的な支援にゆとりを持たせる
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		変更があるときには、必ず、担当者から説明をする	伝えきりない状況にないか確認する方法を模索する
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		お迎えに来てもらった時に相談に乗っている	相談事項についてその後の様子を聞くチャンスを持つようにしていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		卒業後の生活介護事業の見学の際に、保護者と話しあえる	Zoomを利用すると、顔が見えるため、孤独感がないので、機会を増やす。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		皆の声の箱を用意して出入口にチェックしている	ほとんど迎えの時に話を聞いているので箱の中には入っていない。設置場所を考えることにする。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページに掲載	更新がおろそかにならないように、担当者を決めて配信していく
	35	個人情報に十分注意している	○		パソコンを用途別に使い分けている。	職員体制の見直しをして、情報管理を強化した。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		共有ラインを使った配信で伝達を即時に行う	既読になっていない保護者への連絡をする体制の構築
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域ボランティアグループとの企画実施	コロナ感染対策と行事の実施を検討し、安心安全な実施にする

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	従来の感染症については、出来ているがコロナウイルス対策は後手に回っている。	感染対策の新しい考えを早く構築する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	三密を避けることと、安心安全を日常化することのむつかしさを検討している	開催の時期が計画できない。予定が実施できない。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会の参加がオンラインでできる	重症者の虐待マニュアルを独自で模索する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束はしない方向で取り組んでいることを伝えている	放課後等デイサービス計画には個別に記載しているが、基準を早く作成する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	保護者から聞き取り	医師との連携を密にする
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	事例集はないが日報に記載したものを伝達している	情報の共有を密にできる取り組みが必要